

整形外科

● スタッフ（2022年10月1日現在）

診療部長 宍戸 孝明
医局長 立岩 俊之
病棟医長 石田 常仁
外来医長 西村 浩輔

医師数 常勤 33名
非常勤 20名

● 診療科の特色・診療対象疾患

1. 特色

- 1) 「関節グループ」、「脊椎グループ」、「上肢・腫瘍グループ」、「外傷グループ」、「スポーツ・関節鏡グループ」という診療体制に分かれ、各分野の専門スタッフが診断や治療に当たります。さらに、治療後、機能回復を行う「リハビリテーショングループ」、人工関節の材質や運動器の疼痛、骨・軟骨代謝など幅広く整形外科領域の診断・治療にかかわる基礎的な研究をしている「基礎研究グループ」があり、診断、治療からリハビリテーション、そして新たな医療技術の研究と各段階に幅広く対応しています。
- 2) 医局全体として、毎日午前8時より、前日に実施した手術症例の報告および術前症例検討を行っています。また、毎週水曜日は午前7時30分より重症症例カンファレンスや医局全体会議を行っており、各診療グループの垣根がないチームワークも特色のひとつです。

2. 主な診療対象疾患

(脊椎疾患)

頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、首下がり症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊椎靭帯骨化症、化膿性脊椎炎、斜頸、側弯症、後弯症、脊椎骨折、脊椎脊髄腫瘍など

(関節疾患)

変形性膝関節症、変形性股関節症、変形性足関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死、血友病性関節症、変形性肩関節症、肩腱板損傷など

(スポーツ外傷)

膝靭帯・半月板損傷、筋膜損傷、軟骨損傷、股関節唇損傷など

(外傷・腫瘍)

各種骨折・脱臼・靭帯腱損傷、四肢体幹部軟部腫瘍、骨軟部腫瘍、上肢・手外科、末梢神経障害、足の外科（外反母趾）など

● 診療体制と治療実績

1) 診療体制

「関節グループ」：主に股関節・膝関節の人工関節手術を行っています。難治症例に対しては3Dプリンターなどによる術前計画を行い、より正確な手術を心がけております。また、透析や血友病をはじめとする周術期管理

が難しい症例は専門科との連携を密に安全な管理をし、人工関節後弛緩・感染に対する再置換術のような高度な手術も積極的に行っております。

「**脊椎グループ**」：通常の治療で改善しない痛み、高度のすべりや変形を伴った難治性脊椎疾患に対し、難易度高い治療も行っております。最近、術中CTを用いたナビゲーション手術も取り入れ、より安全で正確なインプラントの設置を心がけております。また、内視鏡を用いた低侵襲手術や、難治性疼痛に対する脊髄電気刺激療法、脊髄腫瘍に対しては脳神経外科とのチーム医療も行っております。

「**上肢・腫瘍グループ**」：良性・悪性腫瘍はじめ、がんの骨転移症例まで幅広く治療しております。診断は放射線科、病理診断科と検討を行い、診断難渋例は連携している米国メイヨークリニックとも協力体制をとっております。腫瘍では摘出後に処理骨移植や血管柄付き骨移植を行い合併症のリスクを低減させております。また、上肢疾患は肩関節から手指まで関節鏡や顕微鏡を用いた低侵襲手術を行っています。

「**外傷グループ**」：上肢から下肢まで全身の外傷に対応しております。当院は高度救命救急センターが設置されておりますので、高エネルギー外傷に対する初期対応から手術、リハビリテーションまでトータルケアを行います。また、骨折後の変形癒合や偽関節、骨髄炎といった難治症例に対しても積極的に治療を行っています。

「**スポーツ・関節鏡グループ**」：一般のスポーツ愛好家の方からトップアスリートまで、全てのスポーツ外傷に対して治療を行っています。メディカルサポートとしては、Jリーグの鹿島アントラーズ、フットサル日本代表をはじめとする多くのチームをサポートしております。手術は、膝関節・足関節・股関節に対する下肢関節鏡手術を中心に低侵襲手術を行い、理学療法士とのチーム医療により適切なリハビリテーションを計画し早期復帰を実現しております。

2) 外来

初診・再診・紹介ともに毎日午前から午後まで受け付けています。

脊椎、関節、スポーツ、外傷、上肢、腫瘍、の各専門外来を設けており、最先端の高度な医療が提供できるように努めています。

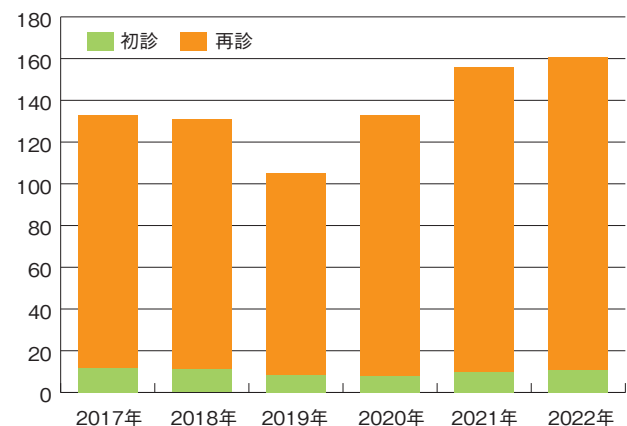


図1 1日平均外来患者数の推移

3) 入院

整形外科のメイン病棟は18階ですが、他病棟を含め常に90%以上の稼働率を保っています。定型的な疾患の入院・手術治療では、全てクリニカルパスを導入しており、患者さんにとって効率的でわかりやすい治療を行っています。

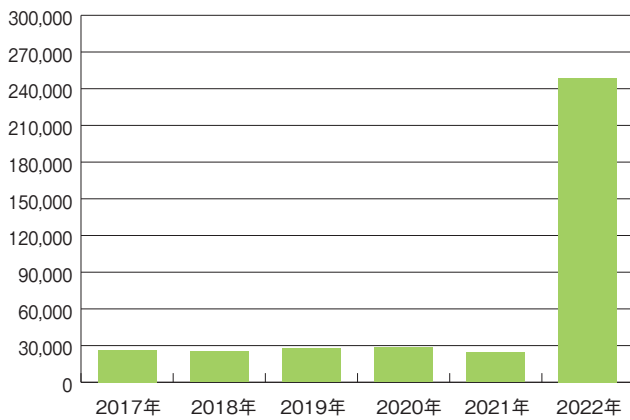


図2 延入院患者数の推移

4) 手術

手術については、変性疾患から腫瘍、外傷まで全ての分野において手術を行っております。

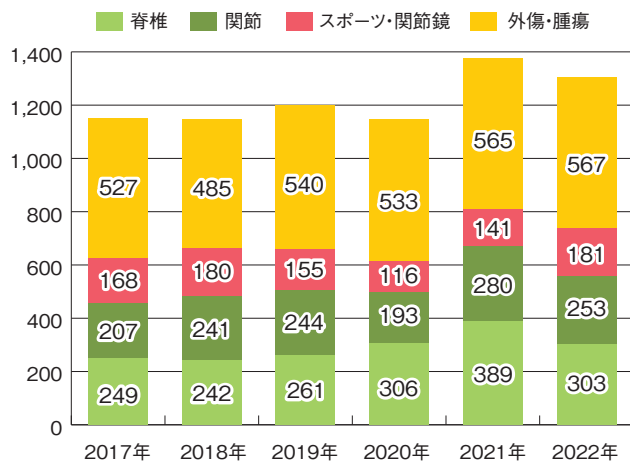


図3 手術数の分野別推移

2022年度手術例内訳	例数
脊椎	273例
上肢・手	148例
下肢	255例
外傷	285例
リウマチ	2例
スポーツ	160例
小児	27例
腫瘍	154例